

- ◎ 発行：富士見台地区協議会
- ◎ 発行責任者：竹口 裕
- ◎ 連絡先：042-482-3012
- ◎ 発行日：令和2年3月

「共助」の力で、安心・安全な町づくりを！！

<富士見台地区協議会は発足して10年になりました。>

「東日本台風」と名付けられた昨年秋の台風19号では、調布市でも180世帯以上で浸水被害が発生し、一部の地域には避難勧告が発令され、市内で避難所へ避難した人の総数は6,000人に達しました。富士見台小学校にも避難所が設置され、910人が避難しました。この富士見台小学校避難所で、調布市に協力し運営にあたったのが、富士見台地区協議会です。

当地区協は、富士見台小学校の学区に住んでいる一般の住民と多摩川、下石原第3、小島町第4・5・7・8・9の各自治会、富士見台小学校、富士見台小学校PTA、富士見台小学校開放運営委員会、青少年健全育成推進富士見台地区委員会、多摩川児童館、郷土博物館、小島町ふれ

あいの家、民生委員などのメンバーが連携・協力して、防災、防犯、環境などの個々の自治会や1つの団体だけでは解決が困難な地区共通の課題の解決に取り組んでいます。

2012年（平成22年）3月に発足した当地区協は、今年でちょうど発足10周年に当たります。

<この10年、こんなことをしてきました。>

・避難所運営マニュアルの作成

2015年に「富士見台小学校 避難所運営マニュアル」を作成しました。「調布市地域防災計画」では、災害発生時には富士見台小学校に避難所が設置されることになっています。このマニュアルはこの避難所を円滑に運営するため、富士見台小学校や地域の環境や諸事情を考慮したものとなっています。

・防災訓練の実施

毎年春には、調布市が市立小・中学校全28校で一斉に実施している「調布市防災教育の日」の防災教育・防災訓練に合わせて、当地区協でも市や富士見台小学校と連携し、非常用トイレの設置や炊き出しなどの訓練を実施しています。また、秋には当地区協が独自に計画した防災訓練を行っています。

・災害用ポンプの定期的な機能確認（水出し）

大地震発生時に生活用水を確保するために設置されている災害用ポンプが、発生時に想定通り機能することの確認や使用方法・手順を多くの人に周知するために、毎月、非常用発電機とポンプを使って実際に井戸水を汲み上げる訓練を行っています。PTAや健全育成委員会などにも参加を呼びかけ、多くの人がポンプを動かせるようになることをめざしています。

・防災に関する啓発活動

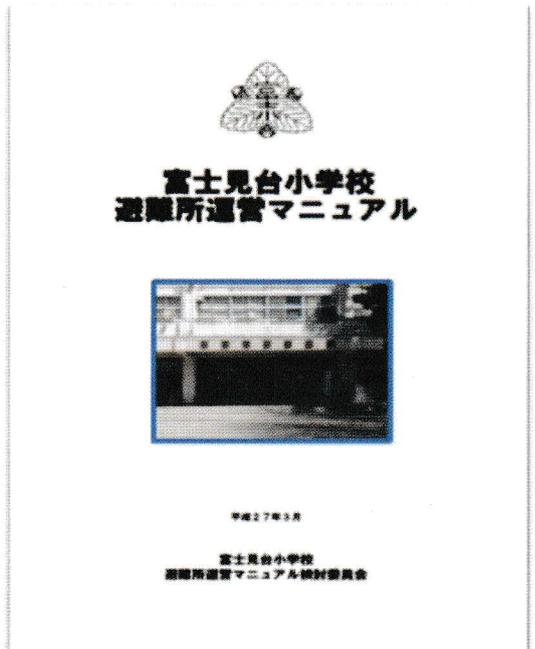
立川防災館の見学会、各種講演会、防災に関するポスターの掲示、ニュースの発行など、地域の人々の防災意識を高めるための啓発活動を進めています。

・その他にも

防災活動以外にも、夏と冬には各自治会と連携して防犯パトロールを行ったり、徘徊する老人を見守る取り組みに参加するなど、地区で発生する様々な課題に関連諸団体と協力して活動しています。



(2019年春の総会にて)



(避難所運営マニュアル 表紙)

<こんな課題が残されています。>

大災害が発生すると、多くの方が避難所に入れません！

昨年の台風19号による水害の際は、富士見台小学校が避難所とされ、多くの方が避難しました。

多摩川のはん濫を想定したハザードマップが示す市内の浸水想定地域には38,000人以上の方が住んでいます。(2019年4月 調布市地域防災計画)市の現在の人口は24万人程です。市域全体に被害が広がると想定される大規模地震はもちろんのこと、超大型台風による水害などの際にも、多くの方が避難所に殺到して、溢れて入れない人が多くでてくる恐れがあります。

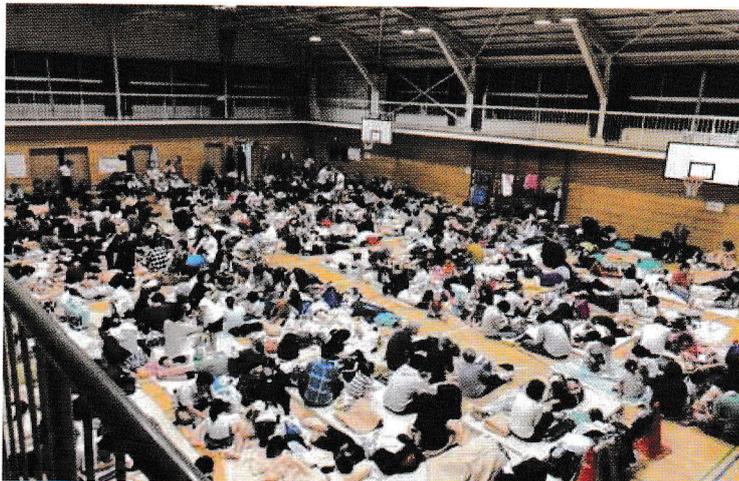
「調布市地域防災計画」では、富士見台小学校避難所には一時的には800人、長期的には400人を収容することになっていますが、昨秋の台風19号の際でも、1,000人以上の人々が来所し、すべての人を収容することができず、別の避難所へまわる人なども出ました。増加する避難者への対応、食料などの配布や関係者間の連絡なども手際よく行われたとは言えない状態でした。今回は早い段階で避難勧告が解除され多くの方は夜のうちに自宅に帰られ、宿泊された方は20名程度と比較的短期間・小規模で終わりましたので、大きな混乱は避けられましたが、多くの反省点を残しました。

避難所で発生した様々な問題点については、避難された方々や運営にあたった方々の意見を整理して、避難所の早期開設などの要望と合わせて市に申し入れましたが、さらに分析・検討が必要です。

多摩川がはん濫すれば、富士見台小学校も浸水が想定されます。

これまでの防災対策は、主に首都直下地震などの大規模地震を想定したものでした。台風や豪雨などによって多摩川がはん濫するなどの水害については、十分には検討されてきませんでした。現在、避難所に指定されている富士見台小学校の体育館や防災倉庫も、ハザードマップでは3m~5m前後の浸水が想定される場所となっていますが、今は何の対策も施されていません。

地球温暖化に伴う異常気象により、今後は超大型台風や集中豪雨の発生の可能性が高まっていると報じられています。大地震に加えて大水害も何時起こってもおかしくない状況になっています。大きな災害が発生すれば、市や国などの行政の力だけでできることに限界のあることは明確になっています。地域の人々が協力し、日頃から対策を相談し、非常時のルールづくりを進め、訓練を重ねて万が一に備えることが欠かせないことは、今回の事例でも明らかになりました。



市の想定を上回る数の避難者で満員になる
富士見台小学校避難所---東京新聞HPから---



富士見台小学校付近の
ハザードマップの拡大図

少しでも災害に強い町にするために、皆さんの手をお貸してください。



会長 竹口 裕

近年は、以前にも増して大地震や超大型台風が発生する可能性が高くなっています。私たちの周りには、老人や子供、障害のある方など災害弱者もたくさん住んでいます。市などの行政に防災対策の強化を促していきませんが、それら「公助」には大きな限界があることも現実です。自分でできる準備をしっかりと「自助」に合わせて、地域の状況を良く知る私たち住民が知恵を出し合い、力を合わせて連携して災害に立ち向かうこと「共助」が大切です。

当地区協も発足して10年になりました。これまで、防災を大きな柱の一つとして活動してきましたが、今後はもっと力を注いでいきたいと考えています。そのためには皆様方の力が必要です。

今のメンバーもみなボランティアで、活動できる時間もまちまちです。年1回の総会や年に数回・夜間1時間程度の運営委員会に参加いただくことだけからでも始めていただけます。小さい力がたくさん集まることが大きな力になりますので、ぜひ、みなさんのお力をお貸してください。

連絡先 調布市 生活文化スポーツ部協働推進課 042(481)7036